

# 新・総合計画策定懇談会（第2回）議事録

## 1 日時

2020年2月7日（金） 15時30分～17時30分

## 2 場所

群馬県庁6階 秘書課会議室

## 3 出席者数

策定懇談会構成員11名、県関係者約25名

## 4 議題

新・総合計画ビジョン検討案について

## 5 構成員の主な意見

（新・総合計画ビジョン検討案について）

- ・ 「ビジョン」、「挑戦する人が増えること」、「未来の教育」、「協働するコミュニティ」。この4つが複雑な地域の社会・経済・文化というシステムをゴロッと変えるテコになる。
- ・ 「県民」とは誰かという話は大事。県民の定義を考えると、県民という言葉を手柔らかに捉え、県と交じり合う人という視点。
- ・ 自治体がデジタル公共財をいかにメンテナンスしていくかということ、先陣切って進めていってほしい。
- ・ 20年後はより色々なものが境界を越えてインタラクティブになっている。新しいチャレンジみたいなものがあると、若い人たちには響きやすく、多様な世界から新しいアイデアが生まれて、意見を取り入れることができる。
- ・ 新しいことを群馬県でやってみたくて内外ともに思わせる仕組み、群馬県を絡ませてみたいと思わせるような仕掛けがあると良い。
- ・ 健康について考える上で、健康格差は即ち所得格差であり、所得の格差について考えていくと良い。共助という考え方の中で、弱い立場の人でも健康に取り組める。また、競争社会の中で生きていける、皆からみてもらえる、そのような部分を打ち出していただけると良い。
- ・ ビジョンを作って、皆と共有できることが一番大事。
- ・ ピンチをチャンスに変えていくこと、課題を資源にするという発想は大事。
- ・ 地域で色々な人たちと一緒にあって、価値を生み出す共創型コミュニティ、これは重要。意識的に打ち出していくと、非常に分かりやすくなると思う。
- ・ ローカルスマートシティについて、高崎市や前橋市に依存しない形のコミュニティを作る必要性を感じた。
- ・ 産業構造のあり方がこれからキモになる。産業構造がアップデートされる仕組みを作ることができるか、その鍵はソフトへ力を入れること。
- ・ 県はある意味 BtoB 機関であって、具体的に戦略になった時に、各市町村が具体的にどういう街になっていくのか、あるいはなりたいのかが明確にないと群馬県のビジョンを戦略に落とし込む時に絵に描いた餅になってしまう。
- ・ 各市町村が各々の特徴を一言で言えるような街になっていくと、良い街になっていく。
- ・ このビジョンは難しいが、発信の仕方が大事だと思う。皆 SNS をやっていて、発信の仕方によって伝わり方、浸透具合が違う。

- 幸せの価値観は生きていくほど変わっていく。色々な幸せがあることを教える人がいると、自分が経験していなくても、その話を聞くことで選択肢が増えて、こうやってみようなどと考えるきっかけになる。
- 60代70代の経営者の中小企業において、事業承継は全然進んでいない。今後どうシフトしていくのか、どのように進めていくのかが課題。事業承継をして難しかったことは、職人のノウハウを共有することであった。
- 海外展示会では、毎年新規出展企業がいる。自動車関係の孫請企業等が多く、これまでは親企業から仕事をもらってきたが、自分達で販売先を見つけなければならなくなっている。
- 人材育成の観点を加えると良く、教育というキーワードを入れていただくと分かりやすい。
- 幸せの定義は人によって違うので難しいが、達成感が重要。愛してもらえていることが実感できると幸せを感じる。
- 産学官民、教育があって、人が集まると、色々な変化が生まれる。
- 地域おこし協力隊として3年間働いた後、根付くきっかけが中々ない。スモールビジネスでもこういうことができるというモデルがあることが必要。